あなたのご意見をお教えください。

私たちの川崎市にも多くの課題があり、一つ一つに丁寧に取り組んでいかなければならないと思います。これからの川崎市のあり方について、あなたのご意見をお教えください。

FAX送付先：044-877-6317

（記入例）

川崎市に生涯住み続けていくつもりだ。 左側に賛成 ― 左側にやや賛成 ― 右側にやや賛成 ― 右側に賛成 ― 機会があれば市外に転居したい。

行政区ごとの違いや特色にもっと対応すべき。 左側に賛成 ― 左側にやや賛成 ― 右側にやや賛成 ― 右側に賛成 ― 川崎市としての政策の一体性を強めていくべき。

街としての活気を保つためにも、今後ともゆるやかに人口増が続くことが望ましい。 左側に賛成 ― 左側にやや賛成 ― 右側にやや賛成 ― 右側に賛成 ― 緑地等の保全を優先すべきであり、これ以上の人口増はできるだけ抑制すべき。

町内会や自治会など地域コミュニティの強化が必要である。 左側に賛成 ― 左側にやや賛成 ― 右側にやや賛成 ― 右側に賛成 ― 都市型の生活スタイルでは、地域コミュニティの必要性は感じられない。

川崎市議会も議員定数の削減などにより議会運営に必要なコストをさらに削減すべき。 左側に賛成 ― 左側にやや賛成 ― 右側にやや賛成 ― 右側に賛成 ― 川崎市議会の政策立案や行政チェック機能を強化するために市議会の態勢をさらに整備すべき。

川崎市議会主催の報告会やタウンミーティングも行うべき。 左側に賛成 ― 左側にやや賛成 ― 右側にやや賛成 ― 右側に賛成 ― 市議会報告は個々の議員や政党・会派で行う方が良い。

少子化対策のためにも、子育て支援策を重視すべき。 左側に賛成 ― 左側にやや賛成 ― 右側にやや賛成 ― 右側に賛成 ― 生涯にわたって安心して住み続けられるために高齢者福祉を重視すべき。

川崎市政や政治全般に関するご意見をお教えください。

前川崎市議会議員　2014年11月号　No.95

ほりぞえ健（けん） ニュース

川崎市高津区下作延4―22―12
電話&FAX　044―877―6317
ホームページ　http://www.horizoe.com
電子メール　horiken@horizoe.com

これからの川崎市政
新たな総合計画の策定へ

●1963（昭和38）年２月６日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
●東京都三鷹市で９年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
●セブンーイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
●2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
●2007年4月、同２期目当選。
●2011年4月、同３期目挑戦するも惜敗。
●民主党神奈川１８総支部　常任幹事
●民主党神奈川県政策委員
●川崎地方自治研究センター客員研究員
●経済産業省　システム監査技術者
●妻と長女の３人家族　下作延在住

（事務局）
福田市長の下で新しい総合計画の策定作業が始まりましたね。

（堀添）
はい。総合計画策定のための市民会議や有識者会議も立ち上がり、これから具体的な検討が進められていくことになります。

（事務局）
今回の計画の特徴はどのような点にありますか。

（堀添）
阿部前市長の１期目に策定された前計画では、２００４年に『川崎市基本構想』を議決し、翌年３月に『川崎再生フロンティアプラン』を策定しました。基本計画と実施計画とが一体化されているとともに、重点施策だけでなく基本的にはすべての事業が計画の中に位置付けられた点がポイントだったと思います。

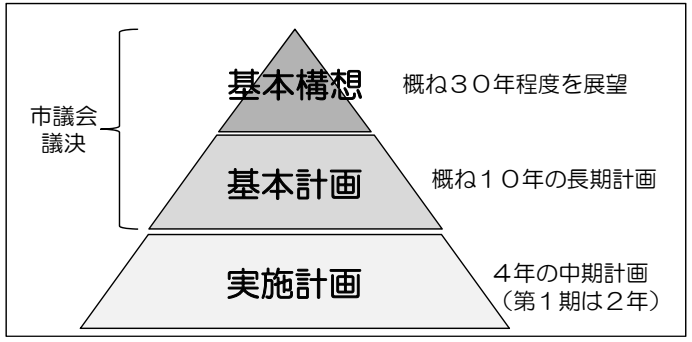
新しい計画は、基本構想ー基本計画ー実施計画の三層構造で策定される予定で、この点では他自治体で採用されている一般的な構成であると言えます。基本構想は概ね３０年程度、基本計画は１０年程度、実施計画は４年ごとに策定する見込みです。

なお、地方自治法や川崎市議会基本条例に基づき、基本構想と基本計画は市議会での議決が必要です。

（事務局）
具体的には、今後どのように計画が策定されていくのでしょうか。

（堀添）
すでに実施された市民アンケートや無作為抽出した市民による検討会での意見をもとに、２１名の市民で構成される「市民検討会議」、学識者６名で構成される「有識者会議」、行政内部での検討が並行して進められ、来年５月末には中間報告が行われる予定です。その後、７月末に基本構想と基本計画の素案が公表され、パブリックコメントも実施されるものと思われます。

スケジュール的には、２０１５年度末までに基本構想等を策定し、２０１６年度からが新たな計画期間となります。ただし最初の実施計画は、２０１７年度までの２年間が対象です。



（事務局）
どのような点に注目すべきでしょうか。

（堀添）
自治体活動の全体を計画上に位置付けることは重要ですが、同時に重点政策を明らかにすることも求められています。また、計画策定の過程での市民の関わり方や地域ごとの特徴の反映もポイントです。

（事務局）
ありがとうございました。

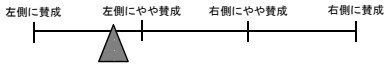
アンケート結果（中間報告）

お願いしておりましたアンケートに、多くの方々からお返事をいただきました。今までに寄せられたご意見の概要について、中間報告を致します。なお、このアンケートは現在も実施しておりますので、引き続きご協力のほどお願い申し上げます。（裏面をご活用ください。）

●アンケート項目の集計結果

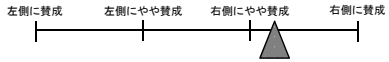
※単純に積算集計しています。一つの項目に複数の〇印を記載されている場合は、それぞれ按分し加算しました。

行政区ごとの違いや特色にもっと対応すべき。



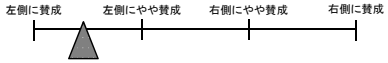
川崎市としての政策の一体性を強めていくべき。

街としての活気を保つためにも、今後ともゆるやかに人口増が続くことが望ましい。



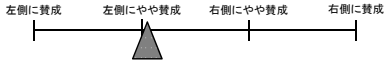
緑地等の保全を優先すべきであり、これ以上の人口増はできるだけ抑制すべき。

町内会や自治会など地域コミュニティの強化が必要である。



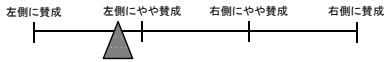
都市型の生活スタイルでは、地域コミュニティの必要性は感じられない。

川崎市議会も議員定数の削減などにより議会運営に必要なコストをさらに削減すべき。



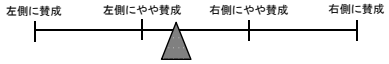
川崎市議会の政策立案や行政チェック機能を強化するために市議会の態勢をさらに整備すべき。

川崎市議会主催の報告会やタウンミーティングも行うべき。



市議会報告は個々の議員や政党・会派で行う方が良い。

少子化対策のためにも、子育て支援策を重視すべき。



生涯にわたって安心して住み続けられるために高齢者福祉を重視すべき。

●寄せられた意見（摘要）

※一つ一つの項目ごとにご意見を記載していただくなど、予想していた以上に多くの方々からたくさんのご意見を頂戴いたしました。紙面の都合でごく一部の掲載となってしまったことをお詫び申し上げます。

「区の自立を促進すべきだと思います。区民による区長選出！区民の声に耳を傾ける政治を！市と区の連携と区の自立を大局観に立って推進する！」

「国政での民主党復権は少なくとも10年は難しい。余りにもお粗末な人材不足の故。県、市、区レベルでの人格・知識・経験の積み重ねにより国政にSTEP UPする以外ない。支援者拡大の為、自らの研鑽の為にも、沢山のグループを作り、国家的視野、市民的視野で研究会、検討会などの活動をすべきと思われる」

「本当に大変な時代です。心して頑張ってくださるのなら応援します！」

「人口増は税政の面では良いが、JRも東急も市バスもそのキャパが賄えていない。」

「これを電子メールでも送れると良いです。PDF送付など、若い世代が使いやすいように。」

「政治はバランスであることに真剣になるべき。少子化で老人ばかりの社会に活気が出るはずがない。母親・子ども手当を重層的に実質予算を増大すべき。少子化が改善すれば高齢者は安心して死ねるのです。死んだあとが荒野では無念の死です。」

「若いニートや仕事のない方が大勢います。安い賃金で働く海外の人を入れることでは給料は上がらないでしょう。若者の夢も希望もない世の中では？」

「若い夫婦は子どもは3人位欲しいと思っているのにナゼ出来ないかを調査すると、2人目からはお金がかかって無理と答えが出てます。どんどん社会に役立つ子どもを作り育てていける川崎市になってほしい。」

「野菜作りが盛んな川崎を、安全な食の町、自給自足の町にしていけば素晴らしいですね。」

「横浜から3年前に川崎市に転居してきたのですが、横浜では『地区センター』というコミュニティ施設が数多くあり、カルチャー、スポーツ、図書などが自由に楽しめました。川崎市には同じような役割の施設が少ないのではないですか。図書館も非常に少なく不満です。子どもから高齢者まで気軽に通える公共の施設をぜひ作ってください。横浜の地区センターを数か所、ぜひ見学してきてください。」

「川崎市の人口が１４５万人となり『市』が巨大化してきた。今や川崎市の統一地方選挙は大変厳しさを増してきている。4年間の任期だと最後の１年～半年間は次の選挙への準備のため落ち着いて議員活動に取り組めないのではないでしょうか。市民のため最良な議員の方に当選していただきたい。議員の皆様には、政策もさることながら、もっと『心』を磨いてほしい」

「公園の緑地化を推進できれば子育て世代の流入も増えるハズ。医療費、教育費の子どもへの優遇は必須」

「川崎市の子育て支援策がいまいち利用できていない。子どもの遊びの広場などいちいち申し込みをしなくちゃいけなかったり、先着〇〇名などと書かれていると、まあいいかとなってしまう。また住んでいる所が中心地よりちょっと遠いとわざわざ子どもを連れて電車に乗っていくのがおっくうになってしまう。小学校のわくわくプラザはとてもいい。よく利用します。

川崎市内を走るバス、東急、市バスのルートをもう少し見直して欲しい。子どもの医療費の助成は小6までにして欲しい。子ども手当は所得制限なしにしてください。」

「公園の緑地化を推進できれば子育て世代の流入も増えるハズ。医療費、教育費の子どもへの優遇は必須」

「都市部でも年々超高齢社会化が進んできます。高齢者・若者・子どもたちにも、助け合い、励ましあう、共に明るい豊かな未来をつくってもらいたいものです。政治にかかわる人は、現場の声を素直によく聞き、反映してもらいたいと思います。」

「政策は現実的に、しかし志は高く！」

「最近、川崎市に転入してきました。高津区役所の窓口の職員の方が丁寧に対応してくださり、とても感謝しています。今まで住んでいた〇〇市よりもぜんぜん良いですね。」

「民主党にとっては厳しい状況が続いていますが、安易に調子の良い政党に移ったり無所属になったりはしないでほしい。目先の利く政治家が選挙目当てでぞろぞろ野合するのにはうんざりする。選挙で当選したときには政党の看板を利用したのだから、政党を変わったり無所属になるのであれば、まずは議員も辞職すべき。こうした当たり前の常識がないから政治が劣化しているのではないか。」

「消費税を上げるのはやむをえないと思う。ただし、増えた税金を従来のような公共事業に使うのは勘弁してほしい。」

「梶が谷駅でチラシをいただきました。通勤時には急いでいるので、いつもあまりお話を聞くことができずすみません。雨や雪のときも演説されているので風邪には気をつけてください！」

「区の中で政策を決めることに賛成です。議会にしても、川崎まで行かないと傍聴できないのは現実的ではないと思います。せめて区役所で開催されれば、関心を持って聴きに行けます。」

連載コラム 川崎と高津の地名（No.２３）

参考：上田恒三著「高津村風土記稿」
日本地名研究所編「川崎の町名」

「上作延」の由来

上作延と下作延は、以前は「作延郷」として一体でしたが、慶長2年（１６９７年）に、それまでの作延郷が分離して上・下作延村の２村に分かれたといわれています。この地には縄文時代前期の住居跡や弥生時代の大きな集落跡もあり、古くから拓かれた土地です。鎌倉時代の初期には、稲毛三郎重成が支配した作延城が、現在の緑ヶ丘霊園の場所にあったと伝承されています。

上作延、下作延の「上」「下」の由来は、他の地名と同様に、京都からみて近い側（関東であれば西側）を「上」、遠い側を「下」としたものと思われます。

作延の地名の由来は諸説あり、サクを耕作の意味として捉える説（耕作地が平瀬川の谷に長く延びてある、耕作地を山間にまで延ばした、等）、サクを谷間を意味すると捉える説（平瀬川の谷間が延びている地、多摩川の沖積低地に対して丘陵山間の谷戸が発達してできた地、等）があります。

また、この他に「作」も「延」も縁起の良い字のため中世に荘園地名となった、という説もあります。

毎週、最新ニュースを駅頭でお配りしています。

雨天決行

月曜日：津田山駅　水曜日：溝口駅南口　金曜日：梶が谷駅　／　午前7時～8時半